



浦口こうてんの 県政報告

発行：浦口こうてん事務所
〒641-0045 和歌山市堀西1-10-14
TEL.073-424-4860 FAX.073-424-3733
E-mail uraguchi@nnc.or.jp
http://www.nnc.or.jp/~uraguchi
平成17(2005)年6月 Vol.3



「実践派」県議として

本気で頑張っています！

和歌山県議会議員 浦口 高典

「感動の初当選」から早いもので二年が経ちました。この間多くの支援者の皆様方からご指導ご指導を頂き、それらを議員活動の基本とさせて頂いておりました。これを改めて御礼申し上げます。誠にありがとうございます。既に「存知の通り、この二年間で合計五回質問(うち一回は予算委員会)に立ち、木村知事はじめ県幹部の姿勢を質して参りました。しかし最近「よ」をして欲しい。(要求)や「を」をしたらどうか。(提案)と当局に働きかけても最終的には「財政がきびしいから、できない。」と断られ結局はできないことが多々あります。それだけに、私のように「和歌山を元気にする！」と「断言」して当選させて頂いた者からしますとこのような「要求」や「提案」だけでは、本当に和歌山を元気にすることはできないと強く感じております。

それなら、自分たちの力で、この「和歌山を活性化」させようと考えて、取り組んできたのが「紀州よさこい祭り」です。この祭りは四年余り前に二人の若者が、私に相談してきたところから始まりました。私自身踊りや「よさこい」については、まったく経験も知識もありませんでしたが、とにかくやりながら形をつくっていきこうというので、私の道場を彼らといっしょになつて踊り出し、仲間を増やしてきました。そして昨年初めての祭りには約7万5千人の観客を集めることができ、今年7月23、24日の二日間15万人の観客動員を目指して私も裏方として頑張っております。

こんな私自身の根柢にあるのは、12年前に「青少年の健全育成」のために設立した「二ツヶんスクール高典塾(週3回指導)」であり、5年前に「街中の防犯と環境美化」を目的に立ち上げた「ガーディアン・エンジェルズ和歌山パトロール隊(月2回自主的にパトロール)であります。いずれも市民活動(NPO)ですが、百万言を発するよりも一つの実践を勇気をもって取り組み徹底のいくりに継続させていく、この姿勢が私自身の政治スタイルであり、これが和歌山を元気にする方法であると感じております。今後も「実践派」県議として和歌山を元気にするために頑張つて参りますので、「ご指導ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。あたたかいご支援を心より感謝申し上げます。ありがとう」でございます。

合掌

浦口こうてん議員 活動ダイジェスト

平成16年

- 5 月**
- 5月7日(金) 西脇地区・三ツ池カーブガードレール欠損視察・即工事(東道粉河加太線)
 - 5月9日(日) NPO法人和歌の浦万葉新能の会主催講演会(本和副大副学長「和歌祭りあれこれ」(志学館))
 - 5月11日(火) NPO法人WACわかやま主催映画「ホーム・スイートホーム」鑑賞(興文小ホール)
 - 5月11日(火) ジョイナス種集オープニング講座「ワンストップサービスの限界に挑む」川口二 財 県中小企業振興公社プロジェクトマネージャー(経済センター)
 - 5月13日(木) 平成16年度殉職警察職員・消防職員及び警察・消防協力殉職者の慰霊祭(警察学校)
 - 5月13日(木) 平成16年度和歌山保護司会総会(アパローム紀ノ国)
 - 5月14日(金) NPO法人和歌山エンジェルズフォーラム設立総会記念講演会ご挨拶(サンピア)
 - 5月17日(月) 平成16年度和歌山県美容組合通常総会ご挨拶
 - 5月21日(土)~25日(火) 和歌山県・中国山東省提携20周年記念式典・交流会、木村知事・尾崎議長他約120名(中国山東省、済南市、青島市他)
 - 5月30日(日) 「紀州よさこい祭り」参加団体説明会(あいあいセンター)
 - 5月31日(月) 6月定例会議・議会運営委員会



和歌山県・山東省「世界遺産」探訪友好交流団



山東省省長と和歌山県知事会談後記者会見

張高麗山東省書記(最高責任者、右から2人目)や木村知事らとともに

8 月

- 8月7日(土) ガーディアン・エンジェルズ和歌山パトロール(アロチ、JR和歌山、ぶらりり)
- 8月17日(火)~18日(水) 新生わかやま県議団熊本視察
- 8月20日(金)~21日(土) 全国都道府県議員野球大会(名古屋)
- 8月21日(土) 紀州ぶんだら祭り
- 8月23日(月) 紀州お祭りプロジェクト実行委員会メンバー木村知事と面談(知事室)
- 釜石津波防波堤を船上より視察
- 熊本県白水村の湧水について調査する新生わかやま県議団(左より原・浦口・玉置・野見山議員)
- 紀州祭りプロジェクト実行委員会の上森事務局長を内田副会長(左から2人目)と説明



安倍自民党幹事長に陳情

「第1回紀州よさこい祭り」で中国山東省政府職員趙東波氏と(和歌山県文化国際課に出向中)

6 月

- 6月7日(月)~23日(水) 平成16年6月定例会議 一般質問P1・2
- 6月12日(土)~13日(日) 北海道「YOSAKOIソラン祭り」視察

7 月

- 7月4日(日) 「コミュニティビジネスについて」片岡勝氏講演会(京都市民活動ボランティアセンター)
- 7月6日(火) 木村知事と「新生わかやま県議団」の懇談会
- 7月10日(土) わかやまNPOセンター主催「NPOフォーラム」(プラザホープ)
- 7月11日(日) 「紀州よさこい祭り」実行委員会決起大会(サンピア)
- 7月12日(月) スペイン・ガリシア州議会議長夫妻他訪問団歓迎会(アパローム紀ノ国)
- 7月15日(木)~16日(金) 関西空港特別対策委員会・第二期工事早期完成を目指して国土交通省並びに与党幹事長陳情
- 7月20日(火) 新「総務常任委員会」顔合わせ
- 7月21日(水) 「和歌山県議会議員選挙区等検討委員会」初会合
- 7月22日(木) タイ王国総領事と中山副知事訪問(「紀州よさこい祭り」と同時開催のフードフェスティバルについて)
- 7月25日(月) 「第1回紀州よさこい祭り」開催(高松サンピア、片男波海水浴場、市役所前けやき大通り他)



YOSAKOIソラン祭り



「YOSAKOIソラン祭り」を12年前、北海道大学の学生時代につくった長谷川岳氏(本紙P3・3段目)と1時間あまり懇談

浦口高典議員

議長のお許しを得まして、通告に従い、質問をさせて頂きました。新生わかやま県議団の浦口高典でございます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

その前に、早いもので、昨年四月の初当選以来、一年がたちました。私自身、この年間を振り返ってみますと、それまで十年に及ぶ浪人生活から一転、県議会の一員としてさまざまな経験をさせて頂いたこと、多くの知識を得て、ふるさと和歌山県の発展に微力ながら全力で取り組める喜びをいっぱい感じました。それも、支持者の皆様のお支度はもちろんのこと、尾崎議長始め会派を問わず先輩・同僚の皆様のお指導・御教授の賜物と、たまたま感謝の気持ちでいっぱいでございます。ありがとうございます。また、木村知事の皆様におかれましては、木村知事始め県議員の方々の誠意ある態度・対応に接したとき、何分浪人生活が長かったために、初めは戸惑いを感じながらも、心に沁み入る誠意がある態度・対応を、私一人にはできない、県民の皆様にも等しく向けていたことを切にお願いを申し上げます。また、昨年四月十日に突如としてあらわれられた私も新会派、新生わかやま県議団につきましても、当初、違つた方向を向いた議員の寄り集まりだとか変わり者集団だとか揶揄されながらも、何となく一年やつてまいりました。その間、幹事長を務められました山下直也議員の脱会という我々にとって大変ショックな出来事がありました。その後、私が図らずも幹事長をさせて頂いたことになりました。山下先生の当時の苦悩の一端をうかがい知ることができました。まことに御心中お察し申し上げます。この御中、委員会の会期末の定審ともなりましたが、国の政策やイデオロギーが絡んでくる採決の場合、会派内の意見が二分するところか賛成・反対・退席の三つに分かれるという、まさに一風変わった会派でもあります。しかし、その設立趣意書の中に、意思決定については、一人の議員の考えを尊重し、意見書や採決については決定をもつて議員の拘束はしない、とうたっておりまして、たまた、ふるさと和歌山県のことにつきましては、常に県民の皆様との立場に立ち、真摯に議論し、できる限り意思統一を図っておりますので、これも新しい時代の議会と会派のあり方を日々実践学習しているものと御認識をいた

き、今後とも御理解のほどよろしくお願ひを申し上げます。さて、私は昨年十二月議会の一般質問において、人口減少社会における和歌山県政のあり方について、知事始め五人の担当部長に質問をさせて頂いたことになりました。今は経済が右肩上がりの時代ではないというのは常識的に言われておりますが、もとともと経済の右肩上がり、基本のところは人口の増加ということがありました。先日、本年四月一日現在の和歌山県の人口が百五万五千三百三十人と発表され、昨年より五千三百三十三人も減少しているというところ、人口消費は、試算しますと九十九万三千三百六十三人で、これにその人数を掛けたと約五十三億円で、この人口減少によってこれだけ経済が縮小したことになります。いよいよ人口の激減が本格的に始まったというのが実感でございます。

我が県では、少し増えた時期もあつたとはいえ、今から二十二年前の昭和五十七年の百九万四千四百四十四人をピークに人口が減少し続けており、さらに国立人口問題研究所の試算によると、二十六年後は約八十八万人まで減少するということがあります。しかも、そのときの高齢化率は三三・一%と今より九ポイント近く高くなり、どのような考えでも右肩上がりの経済成長は望むことができません。だから、小泉首相の「改革なくして成長なし」度アップを目指した「改革なくして満足なし」の方向で改革を進めるべきだと述べさせて頂いたこと、それが、その一般質問では詳しくは述べませんが、その前の九月議会の予算委員会、私が考える少子高齢・人口激減・マイナスイノベーション時代の県民の満足度を高める方法としてNPO、つまり市民の自発的な活動の重要性を集中的に質問したところ、知事は、来年つまり平成十六年度は、NPO元年にしたい、と明言されました。実際に、本年度NPO関連予算は昨年度の約七千万円から約一億一千万円と一・五倍の増額になり、またそれまで県民生活の中であったNPO推進室をNPO協働推進課に昇格させ、職員も四名から九名に増員し、公言されたことは着実に実行されました。まさに決断力と行動力のある木村知事のNPOに対する意欲の表れであり、高く評価すると同時に、質問者である私といたしましては大変うれしくございませ

す。誠にありがとうございます。私は、なぜNPOにこだわったのか、それは、特に和歌山県の将来を考えたときに、今までと同じように国に頼って何となく地域の活性化を図ろうとしてもなかなかできない状況にあるという認識からであります。この点は、知事もその最前線に立っていらっしゃるだけに一番よく感じられていると思います。後ほど三位一体の改革のところで述べさせて頂いたことですが、平成十六年度補助金・地方交付税が約三百億円削減される中で、今までのようなおねだり型の民主主義では、県民の皆さんが夢や希望を持ち、安心・安全で活力ある地域社会としようというところも削られていくことはできません。NPOについては議員はじめ当局の皆さんも十分御認識をお持ちだと思います。ここでは説明を省かせていただきますが、私は、行政、企業に次ぐ三番目のセクターとしてこれからの時代を大きく切り拓いていくものであると期待をしております。それだけに、決してNPOの利益のためにだけという矮小化の議論を私はするつもりは毛頭ありません。県当局においてもいわゆる「請業者のような扱いで見られないように」をお願いいたします。さて、その九月議会の予算委員会翌日の九月二十四日知事のNPO元年発言を受けて県民生活課長とこのところに行き、私が作りたいとした「新しい公共」をつくる市民活動プロジェクト(通称NPOプロジェクト)というのについて、副知事を責任者として設立したNPO推進庁内連絡協議会がこの五月二十八日に各課副課長クラスを中心とした推進委員約二十名について学習会を開催し、県議員の認識の共有化を進めたいと聞いております。しかし私は、これも十二月議会で申し上げましたが、県職員だけで話し合っても本当にNPOとイコールパートナーになれるかどうか、甚だ疑問であります。そこで、これからの庁内連絡協議会をどのような方向に持っていくのであるか、環境生活部長、お答えください。また今後、県内のNPO、特にNPOの中間支援組織と接点を持つ意思はありなのでしょうか。さらに言えば、私が先ほど申しましたNPOを本当に三番目のセクターとして支援・育成する気があるかどうか、お聞かせください。さて、次に、三位一体の改革に伴う補助金の削減のことについてであります。正確には地方交付税と補助金ですが、ここでは便宜上補助金と言わせていただきます。知事もこの改革に

平成十六年六月議会

一般質問(六月十七日)



「在伯和歌山人会50周年記念式典」にはブラジル全土から800名の関係者が参加

日本拳法の浦口佳菜・真実さん 高校女子、中学女子で 目標通り姉妹で全国制覇

二〇〇四年度全日本、典整に所属する浦口佳菜(高校女子)、浦口真実(中学女子)が、目標通り、姉妹で全国制覇を達成した。浦口佳菜は、全日本大会で優勝し、浦口真実は、全日本大会で準優勝した。浦口佳菜は、全日本大会で優勝し、浦口真実は、全日本大会で準優勝した。



「在伯和歌山人会50周年記念式典」にはブラジル全土から800名の関係者が参加

- ### 10月
- 10月2日(土) 田辺昇慶祭
 - 10月6日(水)-8日(金) 総務委員会・福岡・山口県視察
 - 10月10日(日) 和歌の浦万葉新能鑑賞(片男波公園)
 - 10月15日(金) 中山副知事・大平出納長退任式
 - 10月28日(木)-11月6日(土) ブラジル・カナダ和歌山人会訪問



片男波海岸にて里浜をつくり活かすイベントに参加



在伯和歌山人会の歓迎レセプションにてリクエストにお応えして



先端技術を積極的に取り入れている北九州市の産学連携フェアを視察

- ### 9月
- 9月3日(金) 関西国際空港開港10周年記念パーティ(ホテル日航関西)
 - 9月4日(土) わかやまNPOセンター主催NPO政策フォーラム(プラザホープ)
 - 9月5日(日) 和歌山県健康生きがいがづくりアドバイザー協議会にて「元気な町づくり」について講演(関電サービスセンター)
 - 9月9日(木)-29日(金) 平成16年9月議会(一般質問P3・4)
 - 9月11日(土)-12日(日) NPO全国フォーラム(東京)

- ### 11月
- 11月7日(日) 和歌山大学祭よさこいステージ
 - 11月10日(水) 全国都道府県議会議員研修会(東京)
 - 11月11日(木) 「翔の宴」(アパローム紀ノ国)
 - 11月22日(月) 近畿府県議会議員研修会(大阪国際会議場)

- 11月28日(日) ローカル・マニフェスト検証大会(早稲田大学)
- 11月29日(月) 関空対策特別委員会陳情(東京)
- 11月30日(火) 早稲田大学マニフェスト研究所訪問・打ち合わせ



各府県10名ずつの議員が参加して熱い議論と交流を深める



近畿6府県議員交流フォーラム

- ### 12月
- 12月1日(水)-17日(金) 平成16年12月定例議会
 - 12月6日(月) 保護司会第三期研修会(紀三井寺・はやし)
 - 12月16日(木) わかやまNPOセンター理事が知事に政策提言(知事室)
 - 12月19日(日) HCA(足立ゼミ)学習会(ぶらくり丁「インターラケン」)
 - 12月24日(金) 在伯和歌山人会副会長来訪(県議会議事室)



北側国土交通大臣(関空第二期工事)の平成17年度予算案説明



自民党・武部幹事長と森・浦口正副へ関空対策特別委員会



踊りの参考にするために紀州よさこいの踊り子たちに、日本拳法の基本的な動きや呼吸法を指導(右がケーブルテレビJ-COMの取材で、後日同社の番組「コミュニティ・チャンネル」この模様が放映された)



カナダブリティッシュコロンビア州和歌山人会主催歓迎パーティにて、和歌山市と姉妹都市であるカナダ・リッチモンド市のプロディ市長から市制125周年パッチをいただき、「紀州よさこい祭り」のパッチをプレゼントして握手



先づのブラジル訪問でお世話になった社副会長(中央)と本会へ前向きにご意見(同席)をお寄せ



わかやまNPOセンターの元理事として、堀内理事長(和歌山大学助教授・前列左)ら理事会メンバーとともに木村知事を囲んで



津本清環境生活部長



野添勝企画部長



浦口高典議員 再

- ### 3月
- 3月23日(水) 県消防防労者表彰(県小ホール)
 - 3月24日(木) 橋本・伊都地域のNPO関係者とわかやまNPOセンター理事の懇談会(ビッグ愛)
 - 3月25日(金) 河西緩衝緑地東松江緑地開園式
 - 3月26日(土) 「ローカル・マニフェスト地方議員連盟」結成をめざしての勉強会(東京)
 - 3月27日(日)-28日(月) 関西大学体育会拳法部春合宿、塾生とともに参加(香川県小豆島)

- ### 平成17年
- #### 2月
- 2月4日(金) 「ローカル・マニフェスト推進首長連盟」「ローカル・マニフェスト推進ネットワーク」結成大会(東京・日本プレスセンター)
 - 2月12日(土) 第一回和歌山音楽祭(県小ホール) 本紙P2・10段目()-2参照
 - 2月19日(土) 和歌山人権フェスティバル(市中央コミュニティセンター)
 - 2月23日(水)-3月18日(金) 平成17年2月定例議会

- #### 1月
- 1月9日(日) 和歌山市消防団出初式(砂の丸広場)
 - 1月17日(月) 全国自治体議会改革推進会議(三重県・四日市市)
 - 1月27日(木) 紀州お祭りプロジェクト主催「どうせならおもいっきり踊ろう」ワークショップで日本拳法指導(東部コミュニティセンター)
 - 1月30日(日) 「05和歌山環境フォーラム」(県立体育館)

津本清環境生活部長
紀州よさこい祭りについて感想とNPO主導の民間協働事業及び青少年健全育成についてでございますが、まずこの祭りをじかに見せていただき、躍動感あふれる踊りに圧倒されました。踊りの技術もさることながら、開放感に満ちた動き、踊りを見ている人の一体感など、この祭りのすばらしさが伝わってまいりました。

また、小さな子供から高校生世代を初め、幅広い世代が参加されていること、世代を超えて仲間と一つの目的に向かって取り組む姿勢、実行委員会の運営に携わる人々のボランティア精神、自己実現や社会貢献、仲間との連携など、まさに青少年の健全育成の場であり、また、青少年にとっては貴重な体験になったのではないかと感じております。

また、NPO主導で取り組まれていること、手づくりのよさがあらわなイベントで、このエネルギーが街づくりや地域連帯の原動力になると感じたいです。

紀州よさこい祭りは、青少年の健全育成を始め、街づくり、人づくりなど多岐にわたる可能性を持っており、この祭りが和歌山に定着し発展することを願うとともに、県とボランティア募集などで協力させてもらいましたが、今後も県が果たせる役割を十分考え、協働・協力してまいりたいと考えております。

野添勝企画部長
地域社会の活性化の観点から今後どのようにかかわっていくかについてお答えいたします。

第一回紀州よさこい祭りでは、私も高野・熊野の世界遺産PRブースを出させていただき、その盛り上がりや開催に向けてのスタッフの皆様のご熱意を実感いたしました。

NPOと地域の方々を主体とな

小関洋治教育長
伝統文化の掘り起こしについてお答えいたします。

本県は無形民俗文化財の国指定と県指定を合わせて七十四件を保有し、全国で第四位という多くの民俗芸能や祭礼などの伝統行事が残されている県であります。このため、昭和五十年に和歌山県民俗芸能保存協会を設立して保存団体の育成に取り組んでいるほか、近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会や紀伊半島民俗芸能祭に代表者が参加するなど、その普及と振興に努めています。

民俗芸能などの多くは地域に定着し、宗教的背景をもった歴史の中で、はくまれてきたものであり、それぞれが保存団体が独自性や主体性を持って活動しております。

このたび実施された紀州よさこい祭りが今後定着していく中で、伝統的な団体と新しい文化を創造する団体との相互理解や連携の輪が広がることを期待しているところであります。教育委員会として、どのような役割を果たすことができるかを検討してまいりたいと考えております。

浦口高典議員 再
知事始め関係者の皆さん、副知事、大変前向きな御答弁をいただきまして本当にありがとうございます。

これは要望でございますが、特に木村知事に申し上げたいんですが、来年の紀州よさこい祭りへの踊り参加というごめいも、知事自ら先頭に立って、知事の著書ではありませんが、郵の底力」をぜひとも県民の皆さんに、また全国の皆さんにお示しいただくことを要望いたします。私のお力とさせていただきます。ありがとうございます。

石橋秀彦商工労働部長
紀州よさこい祭りにかかわっての三点についてお答え申し上げます。

まず商店街の活性化ですが、商店街の振興には、施設整備を初め、販売促進活動による商店街全体の集客や構成する個々の店舗の魅力アップが必要なことはいくらでもありますが、それとともに紀州よさこい祭りのようなイベント等

により地域の魅力を高めたいことも非常に大切なことと言えます。これらのことは、商店街のみならず、地域の活性化によりNPOと連携し、取り組んでいくことが重要であると考えておりますが、県と連携し、活動しやすい環境づくりについて研究してまいりたいと考えております。

次に新たな観光、地場産業の育成につきましては、議員お話しのとおり、札幌の「YOSAKOI IN IZUMI」のような地域の住民が始めたイベントや祭りが全国的規模になり、その地域の季節の風物詩として地域の大きな観光資源に育っている例もありません。紀州よさこい祭りが今後ますます発展し、和歌山を代表する一大イベントと言われるようになっていくことを期待しております。そのためにも、職員が実施する誘客キャンペーンを初め、各種マスメディアや情報誌等を積極的に活用し、県内外へのPRに努めてまいりたいと考えております。

また、地場産業の育成につきましては、あらゆる機会をとらまえ、販路開拓に生かしていくことが重要であり、議員御指摘のとおり、多数の参加者、観客を集める紀州よさこい祭りのようなビッグイベントを新しい発想、技術による新製品の販路開拓や評価を得る場として、あるいは参加者に地場産品を活用してもらえようという取り組みが大切であると考えております。今後とも、このような機会において和歌山の地場産品を発信していくよう努めてまいります。

次に「コミュニティビジネス」の創出につきましては、御指摘のとおり、祭りを開催することにより地域に活力とチャレンジ精神が呼び起こされ、そこから地域への経済効果や新たなビジネスチャンスの広がりが進むものと認識しております。

「コミュニティビジネス」は、地域の資源を活用し、地域にあるさまざまな課題を解決し、地域社会への貢献を目的とするビジネスであり、祭りを通じて新たなニーズのキャッチから創出される「コミュニティビジネス」への支援について、今後関係部局と連携しながら研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。

お願い
議会の申し合せにより、年賀状・暑中見舞は差し控えていただきますので、よろしくお願致します。
浦口こうてん事務所

野添勝企画部長
地域社会の活性化の観点から今後どのようにかかわっていくかについてお答えいたします。

第一回紀州よさこい祭りでは、私も高野・熊野の世界遺産PRブースを出させていただき、その盛り上がりや開催に向けてのスタッフの皆様のご熱意を実感いたしました。

NPOと地域の方々を主体とな

浦口高典議員 再
知事始め関係者の皆さん、副知事、大変前向きな御答弁をいただきまして本当にありがとうございます。

これは要望でございますが、特に木村知事に申し上げたいんですが、来年の紀州よさこい祭りへの踊り参加というごめいも、知事自ら先頭に立って、知事の著書ではありませんが、郵の底力」をぜひとも県民の皆さんに、また全国の皆さんにお示しいただくことを要望いたします。私のお力とさせていただきます。ありがとうございます。

小関洋治教育長
伝統文化の掘り起こしについてお答えいたします。

本県は無形民俗文化財の国指定と県指定を合わせて七十四件を保有し、全国で第四位という多くの民俗芸能や祭礼などの伝統行事が残されている県であります。このため、昭和五十年に和歌山県民俗芸能保存協会を設立して保存団体の育成に取り組んでいるほか、近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会や紀伊半島民俗芸能祭に代表者が参加するなど、その普及と振興に努めています。

民俗芸能などの多くは地域に定着し、宗教的背景をもった歴史の中で、はくまれてきたものであり、それぞれが保存団体が独自性や主体性を持って活動しております。

このたび実施された紀州よさこい祭りが今後定着していく中で、伝統的な団体と新しい文化を創造する団体との相互理解や連携の輪が広がることを期待しているところであります。教育委員会として、どのような役割を果たすことができるかを検討してまいりたいと考えております。

石橋秀彦商工労働部長
紀州よさこい祭りにかかわっての三点についてお答え申し上げます。

まず商店街の活性化ですが、商店街の振興には、施設整備を初め、販売促進活動による商店街全体の集客や構成する個々の店舗の魅力アップが必要なことはいくらでもありますが、それとともに紀州よさこい祭りのようなイベント等

により地域の魅力を高めたいことも非常に大切なことと言えます。これらのことは、商店街のみならず、地域の活性化によりNPOと連携し、取り組んでいくことが重要であると考えておりますが、県と連携し、活動しやすい環境づくりについて研究してまいりたいと考えております。

次に新たな観光、地場産業の育成につきましては、議員お話しのとおり、札幌の「YOSAKOI IN IZUMI」のような地域の住民が始めたイベントや祭りが全国的規模になり、その地域の季節の風物詩として地域の大きな観光資源に育っている例もありません。紀州よさこい祭りが今後ますます発展し、和歌山を代表する一大イベントと言われるようになっていくことを期待しております。そのためにも、職員が実施する誘客キャンペーンを初め、各種マスメディアや情報誌等を積極的に活用し、県内外へのPRに努めてまいりたいと考えております。

また、地場産業の育成につきましては、あらゆる機会をとらまえ、販路開拓に生かしていくことが重要であり、議員御指摘のとおり、多数の参加者、観客を集める紀州よさこい祭りのようなビッグイベントを新しい発想、技術による新製品の販路開拓や評価を得る場として、あるいは参加者に地場産品を活用してもらえようという取り組みが大切であると考えております。今後とも、このような機会において和歌山の地場産品を発信していくよう努めてまいります。

次に「コミュニティビジネス」の創出につきましては、御指摘のとおり、祭りを開催することにより地域に活力とチャレンジ精神が呼び起こされ、そこから地域への経済効果や新たなビジネスチャンスの広がりが進むものと認識しております。

「コミュニティビジネス」は、地域の資源を活用し、地域にあるさまざまな課題を解決し、地域社会への貢献を目的とするビジネスであり、祭りを通じて新たなニーズのキャッチから創出される「コミュニティビジネス」への支援について、今後関係部局と連携しながら研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。